

事例発表 ② 芦田 操さん(mini ひまわり 代表)



「mini ひまわり」の芦田操と申します。

私は、駄菓子屋さんとフリースクールを運営しています。

最初に、自己紹介を簡単にさせていただきます。

私の本業は駄菓子屋店主ではなく、カウンセラーです。

なんでカウンセラーになったかという、人生において3回死産を経験しています。

その後、将来について色々考えているうちに、お母さんに勇気が与えられるカウンセラーになりたいと思い、4年前に会社勤めをやめて、上智大学のグリーフケア研究所で2年間心理学を学びカウンセラーとしてデビューしました。

屋号が「mini ひまわり」と言うんですけど、ミニひまわりをご存知の方いらっしゃいますか？

1m位のちいちゃなひまわりなんですけれども、花言葉は「あなたは素晴らしい」と言います。一人ひとり素晴らしい種を持ってるのに、自信なく自分なんてできないと思っている人たちが多い世の中で、あなたは素晴らしいって命があって素晴らしいという想いをこめて、この活動をさせていただいてます。

心理カウンセラーの他に、高校の理科の非常勤講師になって3年目になります。

これ以外に、駄菓子屋経営とフリースクール経営、子ども食堂をやっています。

そんな形で、今は駄菓子屋さんの運営で居場所を作っております。

駄菓子屋さんは、2023年12月にオープンしました。それまでカウンセラーでいろんなことをやってきたのですが、不登校の相談がふえてしまって、フリースクールができないかなと言っている矢先に、2階建ての八百屋さんの跡地を賃貸で借りることができました。

茅ヶ崎市香川駅から徒歩30秒のところにあります。1階が駄菓子屋さんで、2階がフリースペース、フリースクールということで運営をしています。駄菓子屋さんの中にキッチンカーが入ってまして、そこから軽食を提供しています。座席が20席から25席ぐらいのフリースペースを持ちながら、駄菓子屋さんをやっています。駄菓子屋さんの様子なんですけれども、子どもたちが集まって話をしたり、おばあちゃんが来て小学生と喋ってたり。

また、いろいろなセミナーも開いています。お店に来ている皆さんの願望を実現化しようということで、自分の根っこを生やす「mini ひまわりカフェ」をやったり、私が学んだ心理学を参加者にお伝えする「mini ひまわりバー」をやったりしています。

駄菓子屋さんがオープンして1年ちょっとですが、今は18名のボランティアスタッフで運営しています。年齢は30代から70代までの男女、いろんな方がお手伝いをしてくれるようになっています。

なかなかモチベーションが維持できないので、月1回お店を午前中閉めてスタッフ会議を行っています。会議の中で「何のために、ここで一生懸命ボランティアをするのか？」「どのような目的意識でこれからの1ヶ月を過ごすのか」を確認する時間を持つようにしています。

これがないと、いろんな相談を受けることでスタッフが苦しくなってしまうのです。

ボランティアスタッフさんは、この会議で私のカウンセラーとしての心理学の知識と一緒に勉強しながら、モチベーションの維持をしています。駄菓子屋さんを始めた時に、本当はママと子どもの居酒屋にしたかったんですけど、なぜか中学生のやんちゃな子どもたちが集まってきて、毎日爆音で踊ったり・歌ったりで、近所からクレームが来たりする中で、売上が上がらなくなってしまいました。

この場所を、親子関係が悪い子どもが来て愚痴を言って解決して帰るなど、安心安全の空間を提供したかったので、何とかできないかと思っている時に、子ども食堂の存在を皆さんから教えていただき、2023年2月に子ども食堂をスタートさせていただきました。

ここの子ども食堂には、お腹の貧困ではなくて、心の貧困の子どもたちが集まってきます。

「親子関係がうまくいかない」「お父さん、お母さんを認めてくれないんだ」「学校の先生も文句を言ってきて、居場所がない」という子どもたちが集まってくるので、「あなたは素晴らしいんだ」と伝えることをずっと続けています。

子ども食堂は週に1・2回程度実施しているのですが、これ以外に子どもたちが『悪い子』というレッテルから剥がされるようにするために、ゴミ拾いも月1回やっています。
「駄菓子屋 mini ひまわり」と大きく書いた黄色い洋服を着て、ゴミ拾いをしていることがわかるように、みんなで清掃活動をしています。後は、地域と繋がるために、「教育居酒屋」を始めています。これは大田区で教育居酒屋をしている方にアドバイスをいただいて、1年くらい先生が集まれる居酒屋を開催しています。茅ヶ崎市の先生は、ポジティブに子どもの未来について語る方が多いので、月1回地域の方と一緒に駄菓子を食べ、お酒を飲みながら、もっと地域を良くするために、教育をよくするためにはどうしたらいいかを語り合う機会を設けています。



それから、フリースクールを駄菓子屋の1階で2024年5月からスタートしました。
駄菓子屋さんの場所でやると、他のお子さんが入ってくるなど難しい問題が発生してきたので、建物の2階を改装して11月からフリースクールとしてスタートさせています。現在は3・4名のお子様と一緒にフリースクールをやっているのですが、夏は普通に学校に行っている子が、週3回学童代わりに通うフリースクールもやっています。その時には、10～15人ぐらい集まりました。2階スペースでは心理学の勉強をしたり、子どもとどうやって接したらいいかというテーマで、パパ・ママを呼んでセミナーをさせていただいています。

よく皆さんから、資金繰りはどうしているかという質問を受けます。フリースクールだけでは赤字になってしまいます。駄菓子屋も人は集まるのですが、利益は全然取れません。
私はカウンセラーなので研修講師をしたり、学校の講師の給与をいただいた中で、どうにか資金繰りはやっているのですが、それでも賄えない場合は、地域から寄付をいただいたり、クラウドファンディングをやったりして、どうにか1年目が繰り越しができる形になりました。それ以外は、各種イベントの場所提供です。例えば、保護者の方が、「私はレジンを作るのが得意なの」というお声をいただいたら、レジンのコーナーを作って、一区画をお貸しして資金をいただいたりしています。

私はカウンセラーなので、ここのお店でカウンセラーが10人いたら、滅茶苦茶いい空間になると思っています。その10人を集めるためにカウンセラー養成講座を開催し、現状は私を含めカウンセラーが3人になっています。最終的には3年以内にカウンセラーを10人にしたいと思っています。ボランティア・スタッフさんも30人にして、みんなが心理学を学びながら、実際の子育てとか、人間関係、職場の悩みとかを自分で打破できるような人たちと一緒に育てていながら、ここで安心安全な空間を作っていきたいと思っています。

今後のビジョンですが、大人が自分のやりたいことを生き生きとやっている背中を子どもに見せて、大人の背中から子どもが何かを感じ取れる場づくりをしたいと思うのです。そうした背中を見せられるスタッフさんを30人集めて、どんな人が来ても、安心安全の空間で、自分らしく過ごせる居場所を今後も提供していきたいと思っています。

よくここにくる人が、「まるで実家に帰ってきたみたいな空間だね」と言ってくれます。
うちの合言葉は「いらっしゃいませ」ではなくて「お帰りなさい」と言うのです。出て行くときは「行ってらっしゃい」と。「今日も一日いいことあるね」とか、「暗い顔をしていても、何かいいことあるから探してきてまた報告してね」。そんな声かけをしながら安心安全空間を作って、この場所を2年目でも守り通していこうと思っています。

今期はフリースクールをNPO法人にし、来期はカウンセラー業や駄菓子屋経営を株式会社にしながら、資金の運営がうまく回るようにしていきたいと思っています。
以上で話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。